

# 令和5年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

|      |        |     |            |     |      |    |       |    |                |       |      |      |       |   |   |    |
|------|--------|-----|------------|-----|------|----|-------|----|----------------|-------|------|------|-------|---|---|----|
| 学校番号 | 18     | 学校名 | 茨城県立緑岡高等学校 |     |      |    |       |    | 課程             | 全日制   |      | 学校長名 | 今瀬 一博 |   |   |    |
| 教頭名  | 椎名 秀文  |     |            |     |      |    |       |    | 事務（室）長名        | 後藤 和彦 |      |      |       |   |   |    |
| 教職員数 | 教諭     | 52  | 養護教諭       | 1   | 常勤講師 | 3  | 非常勤講師 | 4  | 実習教諭、実習講師、実習助手 | 3     | 事務職員 | 4    | 技術職員等 | 2 | 計 | 72 |
| 生徒数  | 小学科    |     | 1年         |     | 2年   |    | 3年    |    | 4年             |       | 合計   |      | 合計    |   |   |    |
|      |        |     | 男          | 女   | 男    | 女  | 男     | 女  | 男              | 女     | 男    | 女    | クラス数  |   |   |    |
|      | 普通、理数科 |     | 175        | 106 |      |    |       |    |                |       | 175  | 106  | 7     |   |   |    |
|      | 普通科    |     |            |     | 160  | 82 | 143   | 88 |                |       | 303  | 170  | 12    |   |   |    |
| 理数科  |        |     |            | 33  | 6    | 24 | 16    |    |                | 57    | 22   | 2    |       |   |   |    |

## 2 目指す学校像

文武不岐の伝統精神のもとに教育活動を推進し、高い知性とたくましい心を持ち、社会に貢献する人材を育成する。

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 育成を目指す資質・能力に関する方針<br>（グラデュエーション・ポリシー） | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「文武不岐」の伝統精神をもって学び続けることができる人材</li> <li>○「進取の気象」をもって高い知性とたくましい心を育むことができる人材</li> <li>○「柔軟な発想」をもって社会の発展に貢献することができる人材</li> </ul>             |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>（カリキュラム・ポリシー）    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○探究を基礎とした教育課程による、普通科の多様性に応える進路希望の実現</li> <li>○探究を核とした教育課程による、理数科の専門性を生かした進路希望の実現</li> <li>○主体的な社会参画のための自治的活動の推進による、社会性と倫理観の醸成</li> </ul> |
| 入学者の受入れに関する方針<br>（アドミッション・ポリシー）       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学び、自ら考えようとする意欲にあふれた生徒</li> <li>○多様なものの見方や考え方を受け入れようとする生徒</li> <li>○興味関心のある分野についてより深く知ろうとする生徒</li> </ul>                               |

## 4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

| 項目   | 現状分析   | 課題  |
|------|--|---|
| 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Classi への入力や学習用手帳の導入など、学習時間の確保と学習習慣の定着に向けた取り組みを継続しているが、まだ十分な学習時間が確保されていない。課題の出し方や授業における様々な活動の評価方法などが確立されていない。</li> <li>・ 入学時から丁寧な学習を継続して行うことができる生徒が少ない。特に、1年生は入学以降、徐々に家庭学習時間が減少してしまう傾向にある。一方で、進路指導室に学習相談に来たり、各教科での添削指導を通して、意識を高く持ち、努力を継続する生徒も増えてきている。</li> <li>・ 生徒間の学力差が大きい。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活に慣れるに従って、学習時間が少なくなっていく傾向が見られる。入学後から2年生前半までの学習時間の減少が大きい。スマートフォンの利用法などを含め、生活習慣の改善など学校全体で取り組む必要がある。また、生徒たちが自ら設定した目標に向かって主体的かつ計画的に学習するための支援も必要である。</li> <li>・ 授業への取り組みは総じてまじめで、質問をする生徒も増えてきているが、テスト結果等を見ると知識が定着しない生徒も少なからずいる。また、学んだ知識を活用して考えたり、表現したりすることを苦手とする生徒も少なくない。吸収した知識を使って考えたり、表現したりする言語活動の機会を増やし、「思考力・判断力・表現力」を評価する大学入試にも対応できる力をつけることができるよう、支援する必要がある。</li> <li>・ スムーズに受験勉強に移行するためにも、低学年時の教科指導を充実させ、基礎学力を定着させるようにする必要がある。</li> </ul> |
| 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大現役合格は123名で7年連続で120名以上の生徒が国公立大学に合格することができた。上位校については、東北大学に3名、東京外国語大学に2名、北海道大学、お茶の水女子大学に各1名現役で合格している。また、筑波大学医学群医学類、群馬大学医学部医学科に各1名現役で合格した。複数の生徒が国公立大学の医学部医学科に現役合格するのは約10年ぶりとなる。筑波大は5名、茨城県立医療大は11名、茨城大は50名の現役合格者を出した。</li> <li>・ 私大の上位校早慶上理・GMARCHなど東京都内の主要私立大学は、それぞれのべ11名・90名の現役合格者を出した。GMARCHのべ合格者数は過去最多となっている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子化などの影響により、大学入試の状況も刻々と変化中、高い目標を持ち続け、最後まで努力を続ける姿勢がより重要となってきた。本校は国公立大学の後期日程試験までしっかりと大学受験に取り組む生徒が多い。今後も、あきらめずに最後まで努力を継続する気持ちを集団の中で高め合い、変化の多い時代の大学入試を乗り越えることが出来るよう教職員が一丸となり支援する必要がある。</li> <li>・ 今後も旧帝大クラス5名、筑波大学10名、国公立医学部医学科1名以上など国公立大学上位校の合格者を増やし、早慶上理、GMARCHなど私大上位の合格者も70名以上を目標としつつ、国公立、私立にかかわらず、多様化する進路希望に柔軟に対応しながら進路指導を行えるようにする。</li> </ul>   |

別紙様式1 (高)

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 生徒指導  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の着こなしについては、校則を改正したこともあり、きちんと着こなせている。</li> <li>・自転車の左側通行及び自転車通行帯の通行もできつつある。一方で、自転車運転では、一部の生徒による並走運転や交通量の少ない住宅地内等の一時停止無視が見受けられる。</li> <li>・ヘルメット着用は徐々に浸透しつつある（本年度4月からヘルメット着用が努力義務化）。</li> <li>・携帯やスマートフォンの使用マナー等に関して課題がある。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と話し合いを持ち、さらに服装等についての共通理解を持つなど指導をしていくための工夫と改善が必要である。</li> <li>・駐輪場での自転車の施錠、指導を含めた交通安全指導の継続が必要である。</li> <li>・本年度4月のヘルメット着用の努力義務化に伴い、着用率を上げる。</li> <li>・スマートフォン等のルール・マナーの遵守と節度ある利用（休み時間等の利用を含む）に向けた指導が必要である。</li> </ul> |
| 特別活動  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動について、生徒のニーズに応じた運営を各部でおこなっている。</li> <li>・緑高祭・クラスマッチ等、学校行事において生徒主体の活動を実施している。</li> <li>・緑歩会は、コースの安全性を第一に考え下見確認を徹底するとともに、綿密な打合せの結果、コース決定をしている。</li> <li>・生徒会は、本部生徒のリーダーシップのもと活発に活動している。</li> <li>・Classi を利用したキャリアパスポートの実践に取り組んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と学習の調和のとれた学校生活を送れるよう指導することが必要である。</li> <li>・コロナウィルス感染予防対策を十分に取りながら、緑高祭や緑歩会の実施に向けて企画・運営を進めていく。</li> <li>・生徒会本部役員の立候補者の確保とリーダー育成が必要である。</li> <li>・Classi でポートフォリオを作成し、自己評価に活かしていく。</li> </ul>                         |
| 事務    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的かつ効果的な予算執行に努め、教育環境の保全のため、施設設備の維持管理に努めている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備の経年劣化が進んでおり、施設設備の定期点検結果に基づき、計画的に修繕を実施する必要がある。</li> </ul>   |
| 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・残業時間月 80 時間超の教員はいなくなったが、45 時間以上の超過勤務をしている教員数はまだ一定数はいる。</li> <li>・大学進学の結果や生徒の部活動の参加率の高さは、教員の献身的な努力によるものが大きい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令遵守の観点から、教員・生徒・保護者のコンセンサスを得ながら、さらに業務の精選と効率化を進めていく必要がある。</li> <li>・教員の「働きがい」を維持しつつ、従来の働き方に対する意識改革が必要である。</li> </ul>  |

5 中期的目標

|   |
|---|
| <p>教育環境の充実と、生徒一人一人の自己実現を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自ら学び、主体的に判断し、課題を解決するための「確かな学力」の育成を図る。</li> <li>(2) 将来を見通した多様な進路希望に対応しつつ、その実現のための支援の充実を図る。</li> <li>(3) シティズンシップ教育を通して自治的活動を促進し、社会性と倫理観の醸成を図る。</li> <li>(4) スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を核とした探究活動の充実を図る。</li> <li>(5) 働き方改革によるワークライフバランスを目指し、ウェルビーイングの実現を図る。</li> </ol> |
|---|

## 6 本年度の重点目標

| 重点項目                          | 重点目標  |
|-------------------------------|---|
| I 生徒の主体性を引き出すカリキュラム改善と授業改善    | ①探究的な学びを中心にコミュニケーション能力・批判的思考力・論理的思考力の育成に努める。<br>②課題解決型学習(PBL)により、正解のない問いに協働して納得解を導く機会の創出に努める。<br>③ICT 機器などを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びの実践に努める。<br>④自学・自習の習慣を確立し、自ら問いを発することができる主体的な学習態度の育成に努める。<br>⑤学習指導要領に基づく生徒の実態に応じた評価を工夫し、指導と評価の一体化の推進に努める。<br>⑥生徒による授業評価において、授業満足度関連項目における評価の平均値 3.0 以上を目指す。 |
| II 生徒の自己実現のための進路指導と進学実績の向上    | ⑦生徒に高い志を持たせる機会を積極的に設け、キャリアパスポートの効果的な活用に努める。<br>⑧個別面談等を通して生徒の「進路設計と課題の明確化」を図り、進路意識の向上に努める。<br>⑨学年、教科、学習進路指導部の協働により、学びに向かう力の育成と人間性の向上に努める。  |
| III シティズンシップ教育の充実による自己指導力の向上  | ⑩各教科・領域、活動の指導事項を横断的に捉え、自主性、自立性及び創造性の育成に努める。<br>⑪成人年齢の引き下げを受け、市民として備えるべき資質・能力の自覚とその育成に努める。<br>⑫校則等の見直しなど、生徒が自ら考え判断する場を設定し、自治的な活動の充実に努める。   |
| IV S S H 事業、国際交流事業及び社会貢献活動の推進 | ⑬課題研究・探究活動の質的向上を図り、共通理解と教科横断的視点での組織作りに努める。<br>⑭高大連携事業の実施に必要な人的、物質的な体制を確保しつつ、その改善と充実に努める。<br>⑮ S S H 事業、国際交流事業の成果を、説明会や H P を通して地域へ還元するように努める。   |
| V 働き方改革の実践並びに教職員の教育力の一層の向上    | ⑯教材の共有化、ICT を活用した効率化の促進によって、業務量の軽減に努める。<br>⑰部活動・学習課外・模擬試験等の業務運営時間や方針の明確化に努める。<br>⑱生徒一人一人に向き合い伴走しながらも、勤務時間の一層の縮減に努める。<br>⑲生徒・教職員が目標を共有し共に成長できる教育環境・職場環境作りに努める。<br>⑳校内研修の充実並びに校外研修・視察等への積極的参加と成果の共有に努める。  |